

論文審査の要旨

報告番号	甲・㊦ 第 3072 号	氏名	林 圭一郎
論文審査担当者	主査 新家 俊郎 教授 副査 泉崎 雅彦 教授 副査 木内 祐二 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>前立腺肥大症 (Benign Prostatic Hyperplasia: BPH) に伴う下部尿路症状 (Lower Urinary Tract Symptoms: LUTS) に対する薬物治療は α1-阻害薬がその首座を占めてきた。Phosphodiesterase-5 (PDE-5) 阻害薬タダラフィル (ザルティア錠[®]) が新たに BPH 治療薬として保険承認された。その機序は血管内皮、膀胱、尿道、前立腺、海綿体の平滑筋に分布する PDE-5 を阻害し、平滑筋が弛緩することで下部尿路組織内の血流や供給酸素量が増加し排尿障害が改善するものである。本論文は、PDE-5 が血管内皮に局在していることから、タダラフィルの副次的効果として動脈硬化の改善の可能性を検討した前向き研究である。103 例を対象とし、方法はタダラフィル 5mg を連日投与し、投与前後の脈波伝播速度 (Pulse Wave velocity: PWV) を測定し血管機能の検討を行っている。全患者では有意な改善を認めなかったが、心血管イベント発症の高リスク群、あるいは 75 歳以上の患者群において改善を認めた。タダラフィルにより排尿障害の改善に加えて動脈硬化抑制の可能性が示唆された。</p> <p>以上の点で本論文は新しい知見を得ており、学位論文に値するものと判断した。</p> <p>論文題名: 前立腺肥大症患者におけるタダラフィル少量持続投与による動脈硬化改善の可能性 掲載雑誌名: 日本性機能学会雑誌, 第 32 巻 3 号, 275-281 項, 2017 年</p>			

(主査が記載、500 字以内)